

三重櫓ついに完成

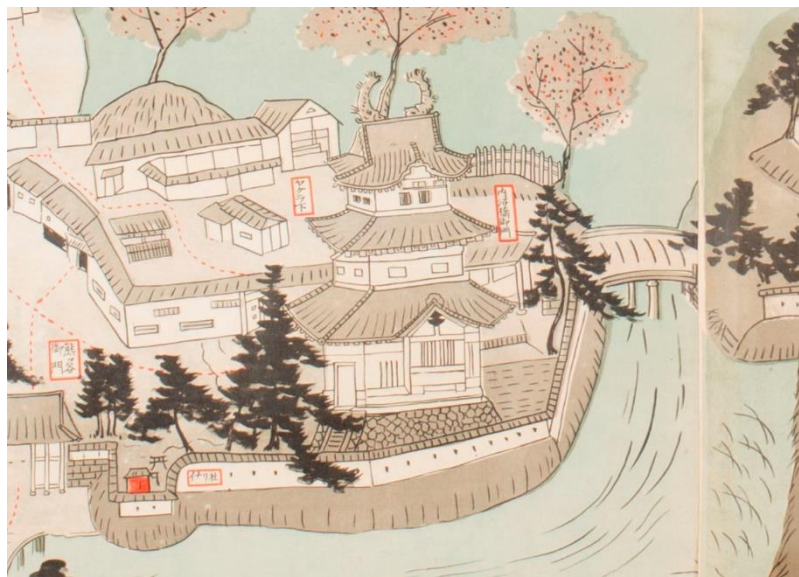
普請の目玉 老中阿部正武公の威信ここに示せり

元禄15年9月12日、新たな忍城のシンボルとなる三重櫓・二重櫓がついに完成した。

城郭の南端部・西部・東端部にそれぞれ建設される計三つの櫓は、周囲を見渡すことのできる物見櫓でもあるが、遠方からでも一目で忍城を見つけることができる新たなランドマークの誕生とも言えそうだ。

櫓の建設が正式に決まったのは元禄14年3月25日のこと。この日、江戸幕府の老中土屋政直・稲葉政通・秋元喬朝・小笠原長重が阿部正武公の櫓三か所と帯曲輪の新設を許可された。

建設開始は長久寺住職が吉日として選んだ4月5日から。惣奉行に河野半右衛



忍城かわら瓦版ばん

発行所：
埼玉県行田市本丸
17-23
発行人：
行田市郷土博物館

門が就任し、配下の三宅惣左衛門、以下20人(足軽含む)が勤めを全うする誓詞を提出し、緊張感を漂うなか工事はスタートした。

早々に完成したのは、馬場曲輪の東側に設置された鉄砲矢場。5月1日にできたこの鉄砲の稽古場は、50目玉くらいまでの比較的小さな玉

であれば稽古が可能となりそうだ。

8月22日、各櫓の柱や梁が組みあがり、上棟式がとり行われた。式には裱を召した家老衆と建設を進めてきた惣奉行河野以下の家中がみな出席し、お神酒を頂戴した。なお、棟梁や肝煎たちにはその功労に応じて褒美が与えられたようだ。

今年5月中には帯曲輪も完成し、城郭に関する新たな条目が發布された。そして9月12日、ついに三重櫓・二重櫓が完成した。残る多聞櫓も来年中には完成予定だといわれている。

正武公の威信を目に見える形として示した今回の忍城大改修は、忍城の歩みのなかでも大きな出来事になるであろう。

(城下在住)

↑ 三重櫓と周辺の景観(明治六年調整忍城)

家臣の城内マナー改善を相次ぐ問題行動 御家老触書で苦言

このたび三か所の櫓や帯曲輪などが新たに建設された。これに際して、城郭内の過ごし方に関する「お粗末マナー改善を求めろ」という御家老からの触書が元禄15年11月7日に御家老から発せられた。

盛り込まれた内容は、いずれも家臣のモラル低下が招いている素行とみられ、触書を出さねばならぬほど、阿部家家中は城郭を大切にしろ。というものであり、今回の御家老からの触書には、ある種の危機感の含みを感じる。

今回の御家老からの触書には、ある種の危機感の含みを感じる。阿部家家中は城郭を大切にしろ。というものであり、今回の御家老からの触書には、ある種の危機感の含みを感じる。

御家老の触書(11月7日発)

- 新土居の破壊禁止
- 亀裂のある土居の修復
- 藪の伐採禁止
- 土居に出来た棚道や川道は元通りとする
- 曲輪土居に生えている竹木の伐採禁止

(抜粋して掲載)